

事故を防ぐために

● 長く使用を続けている暖房器具は経年劣化で発煙・発火などの事故が起きやすくなります。時々点検を行い、性能が維持できなくなったものは使用をやめましょう。

● 温風の吹き出し口やヒーターに近づき過ぎるとやけどを起こしますので注意しましょう。

● 暖房器具のリコールなどが頻繁に出されています。該当製品ではないか時々チェックしましょう。

石油ファンヒーター・ガスファンヒーター

● こまめに換気をしましょう。

● 温風があたるところや火のそばにスプレー缶を置いたり使用したりすると破裂・引火などの危険があります。

● 灯油を使う暖房機器では、異常燃焼や故障の原因になるので、長期間保管した灯油の変質等に注意しま



しょう。

● シリコンが配合されているスプレー剤を石油ファンヒーターの近くで使用すると、シリコンがヒーターに吸引されて安全装置が働き、燃焼が停止することがありますので注意が必要です。

ハロゲンヒーター

● 高熱を発する電気器具なので、近くに可燃物を置かないようにしましょう。また、その場を離れたり就寝するときは、電源を切り、コンセントを抜くこと。

● 輻射熱を利用した「部分暖房」器具であり、室内全体を暖める用途には向かないので目的に応じて使いましょう。

電気カーペット・こたつ

● 低温やけどを負わないために、体の同一個所が長時間触れないようにしましょう。また、就寝用暖房器具としての使用は避けましょう。

● 発火や発煙の原因として、コードの断線やサーモスタットが働かなくなるなどの劣化がよく見られます。長年使用したものは点検をしましょう。

● 本内容は、独立行政法人国民生活センターホームページ内の「くらしの危険」コーナーにてダウンロードできます。

<http://www.kokusen.go.jp/kiken/index.html>

● 本内容の詳細は、独立行政法人国民生活センターホームページに掲載しています。

<http://www.kokusen.go.jp/>

「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、協力病院等から収集した情報をもとに、

被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。

特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。

商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。

無断転載はお断りいたします。



独立行政法人

国民生活センター

〒108-8602 東京都港区高輪 3-13-22 TEL.03(3443)1208 ● 2009年1月発行

くらしの危険 Number 287

暖房器具の事故

寒さが厳しい季節、暖房器具はなくてはならないものです。

暖房器具は暖を取るためのものですので、熱を作り出すために

火や電気ヒーターを使っています。そのため、

多かれ少なかれ発火や火災、やけどなどの危険性があります。

快適性と危険性のつりあいを取りながら、

いろいろな製品が開発され

技術も向上していますが、

それでも毎年多くの事故

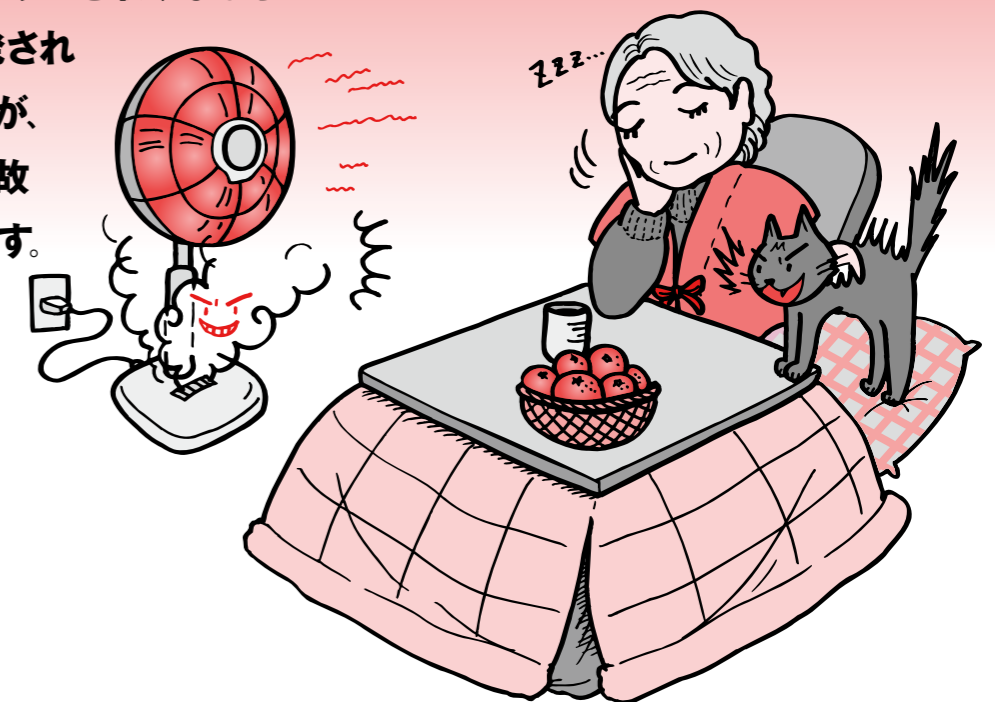
情報が寄せられています。

暖房器具の特徴と

危険性を知って、

安全で快適な冬を

過ごしましょう。



最近ではハロゲンヒーターの事故が目立つ

ハロゲンヒーターは従来の電気ストーブに比べて暖房の立ち上がりが速いことなどをうたい文句にして数年前に人気を集め、部分暖房器具として急速に普及しました。しかし、普及後まもなくから、主に廉価の輸入品で、事故や早

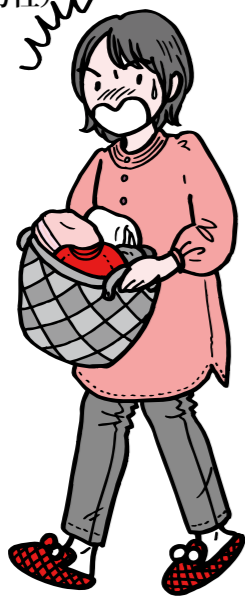
期故障など製品の品質に起因する相談が多数寄せられています。

また、発煙・発火などによる自主回収も多く、電気暖房機器の中では社告の件数の多さが抜き出ています。

こんな事故が起きています

ハロゲンヒーター

ケース 1 就寝後、2階から出火して自宅が全焼し、夫は全身やけどで入院中。出火の3ヶ月前にリサイクル店で購入したハロゲンヒーターが火元であったが燃えてしまって製品名等は不明。
(60代 男性)



ケース 2 2年前に購入したハロゲンヒーター。いつものように使っていたところ突然破裂した。破片が子どもの手にあたり、切り傷とやけどを負った。
(7歳 男児)



石油ファンヒーター

ケース 3 13年前に購入した石油ファンヒーター。炎が大きく強くなり制御できない状況になった。危険なのでメーカーに申し出たが、「部品はもうないので買い換えてはどうか」と言われた。対応が悪いのではないか。
(60代 男性)



石油ストーブ

ケース 4 石油ストーブを消したつもりが火種が残っていたため不完全燃焼を起こし気分が悪くなった。10日ほど前から消しても臭いと思っていた。今朝ストーブをよく見たら火種が残って赤くなっていた。危険ではないか。
(70代 男性)



電気カーペット

ケース 5 10年ほど前に購入したホットカーペット。スイッチを入れて2時間後にバチバチ音がしてコンセント付近のコードから発火し焼け焦げができた。
(40代 女性)

こたつ

ケース 6 ホームセンターで購入したこたつを一番強くして利用していたら膝が赤くなりやけどしていた。購入時は知らなかったが、ハロゲンヒーター式のこたつであった。
(30代 女性)

暖房器具の安全性についてテストしてみました

ファンヒーターなどの安全性

ファンヒーターやFF式石油暖房機などは温風吹出口が100℃以上に達することがあり、やけどの危険がありました。温風や床暖房では、「暖かい」と感じる程度の温度でも、長時間同じ状態していると低温やけどや脱水症の危険があります。燃焼ガスを排出するファンヒーターでは、室内の空気が二酸化炭素などで急速に汚れ、VOC（揮発性有機化合物）も排出されていました。また、石油ファンヒーターの給油タンクキャップは、操作性や確実性に違いがありました。暖房時の湿度は、エアコンなど単に空気を暖めるものは低めで、加湿の必要がありました。一方、ファンヒーターは、水蒸気が燃焼ガスとともに排出されるため、結露やカビが発生する心配があります。

商品テスト「暖房器具の安全性等」（2002年9月6日公表）
http://www.kokusen.go.jp/test/data/s_test/n-20020906_1.html

「石油ファンヒーターによる室内空気汚染」（2007年10月5日公表）
http://www.kokusen.go.jp/test/data/s_test/n-20071005_1.html

電気カーペット使用上の安全性

電気カーペットの設定温度を最も高くしたときの表面温度は約42-46℃でした。温度設定を高温にしてモニターが横たわったところ、1時間後には背中表面の接触部温度が39℃を超えました。誰もが直ちに低温やけどに至るとは言えませんが、接触状況や血流状態など、条件によっては低温やけどになる可能性があるとの報告もあります。

また、電気カーペットの上に布団を敷き、モニターが睡眠途中で電源を入れたところ、短時間で温度と湿度が上昇して、我慢できない熱さに達しました。この時点で、背中下の温度は38.2-39.0℃と開始前の体温より高い値であり、相対湿度は70.9-94.5%でした。乳幼児や高齢者などは脱水症状となり熱中症になる可能性があると考えられます。

商品テスト「暖房器具の安全な使い方—その1 電気カーペット—実使用上の安全性—」（2004年11月5日公表）
http://www.kokusen.go.jp/test/data/s_test/n-20041105_1.html

